

## 『平成27年度中学生ふるさと民泊学習推進事業』活動報告書

### 【中学生ふるさと民泊学習推進事業】

#### ふるさと民泊体験学習 山口県周防大島町立安下庄中学校

#### 学校概要

##### ① 学校規模

- 学級数：5学級  
(内 特別支援学級2学級)
- 生徒数：55人
- 教職員数：12人
- 活動の対象学年：2年生19人

##### ② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 現在人口1.8万人の過疎化が進む瀬戸内海に浮かぶ島で、高齢化も進んでいる。
- 豊かな自然が多く、地域の伝統行事なども受け継がれているが、現代っ子の特徴として、生徒の自然体験は豊富とは言えない。
- 最近では、瀬戸内のハワイとして観光開発や地域おこしも盛んになり、赤ちゃんからお年寄りまで安心して暮らせる町づくりが進められている。

##### ③ 連絡先

- 〒742-2806  
山口県大島郡周防大島西安下庄562番地
- 電話：0820-77-0044
- FAX：0820-77-2088
- ホームページ<http://www.sea.icn-tv.ne.jp/~anchu/index.html>
- 電子メール [anchu@sea.icn-tv.ne.jp](mailto:anchu@sea.icn-tv.ne.jp)

#### 体験活動概要

##### ① 活動のねらい

- 宿泊体験活動を通して、生徒の社会性や豊かな人間性を育む。
- 農漁村の自然や人々との交流の中で、勤労することの意味やすばらしさ、重要性について学ぶ。
- 自主・自立的な共同生活を通して、規律ある生活態度と集団行動の仕方を身に付ける。

##### ② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 事前準備の活動  
総合的な学習の時間2単位時間
- 民泊体験活動（夏休み2泊3日）  
総合的な学習の時間18単位時間
- 事後の活動  
総合的な学習の時間5単位時間

##### ※ 民泊体験活動場所

山口県大島郡周防大島町東和地区

##### ③ 事前準備（民泊家庭紹介・補助金申請）

- 周防大島町体験交流型観光推進協議会  
周防大島町産業建設部 商工観光課
- 周防大島町教育委員会  
学校教育課

### 1 活動に関する学校の全体計画

#### ○ 活動のねらい

『自己の在り方や生き方について考える～第2学年のテーマ「産業と生活」』

・地域での体験活動や勤労体験を通して、自らの生き方を振り返り、今後の生き方を考える力を育成する。

○ 全体の指導計画

- (1) 活動の名称：ふるさと民泊体験学習
- (2) 実施学年：第2学年19人
- (3) 内容：民泊体験（農業体験、漁業体験、家業体験等）
- (4) 教育課程上の位置付け：総合的な学習の時間
- (5) 期間：2泊3日（単位時間数18時間）
- ※ 教科等学習指導との関連 … 社会科：地理「産業と人々の生活」  
国語科「手紙の書き方（お礼状）」

2 活動の実際

○ 事前指導（総合的な学習の時間：3単位時間）

- (1) 民泊とは何か〔ゲストティーチャー：周防大島町教育委員会  
コミュニティー・スクールスーパーバイザー 大野圭司 様〕

- ・周防大島について知る（昔と今の周防大島、周防大島のよいところ）
- ・周防大島で民泊体験をした学校や生徒の紹介
- ・民泊で何を学ぶか（目的やねらい、自己テーマの設定の仕方）



(2) 民泊の事前準備

- ・班編成（男子3班・女子2班）、アレルギー調査
  - \* 配慮を要する生徒や食事・健康面での配慮
- ・自己テーマの決定（何を学ぶか、どのように変わりたいか等）
- ・自己紹介カードの作成（受け入れ家庭の方々との会話の糸口となるもの）
- ・民泊のしおりの作成（日程や持参物の確認）

○ 活動の展開

月日(曜)	時刻	生徒の活動内容	教員の指導・支援	総合的な学習の時間
8/19 (水) [1日目]	9:30	●学校集合→人員確認後、バス移動 ■入村式(対面式)〔東和総合センター〕	入村式 対面式	5単位 時間
	10:00	→各民泊家庭へ移動〔各民家の車両で〕○昼食		
8/20 (木) [2日目]	午後	○各民家に分かれ家業体験（農業、漁業、家業手伝い等） ○夕食・入浴 ○自主研修 ○宿泊（健康観察・就寝）	巡回  宿泊 (本部)	8単位 時間
	午前	○起床（健康観察）○朝食 ○各民家で家業体験（農業、漁業、家業手伝い等） ○昼食	巡回	

8 / 21 (金) [3日目]	午前	○起床（健康観察）○荷物整理・朝食 ○各民家で家業体験（農業、漁業、家業手伝い等） ○昼食	巡回	5単位 時間
	13:30 14:30	→各民家から移動〔各民家の車両で〕 ■離村式〔東和総合センター〕→バス移動 ●学校着、解散	離村式	

※ 家業体験 … 野菜収穫、除草作業、漁船からの魚釣り、介護施設訪問、調理や料理(ピザやケーキづくり、魚の三枚おろし等)、竹細工、フォトスタンドづくり、清掃作業 等



入村式・対面式（民泊家庭との出会い）



漁業体験（船釣り）



調理体験（魚の三枚おろし）



竹細工（竹トンボづくり）



フォトスタンドづくり（ガラス・金属加工）



海の家の手伝い（皿洗い）



漁業体験（船上での食事）



離村式（民泊家庭とのお別れ）

○ 事後指導（総合的な学習の時間：5単位時間）

(1) 民泊を終えて

- ・活動記録の整理（民泊のしおり）
- ・お礼状の作成

(2) 民泊のまとめ

- ・活動内容や体験談、学んだこと等の壁新聞づくり（大版用紙）

(3) 今後の学習に向けて〔ゲストティーチャー：周防大島町教育委員会

コミュニティー・スクールスーパーバイザー 大野圭司 様〕

- ・ふるさと学習「郷土おおしま」やキャリア学習「職場体験学習」へのつながり

### 3 体験活動の実施体制

○ 学校や受入地域の支援体制

(1) 学校の体制

- ・第2学年部を中心に実施組織を編成〔校長、教頭、学年主任(学級担任)、学級副担任、養護教諭〕
- ・体験学習当日の本部の設置〔周防大島町西方：瀬戸内荘やまもと〕
  - ＊ 夜間は担当教員が宿泊し、緊急時に備える体制を整えた。

(2) 家庭や地域

- ・周防大島町東和地区民泊家庭
  - ＊ 県内や県外から多数の民泊修学旅行等を受け入れている地域であり、周防大島町体験交流型観光推進協議会に選定していただいた。

(3) 推進事業との関連

- ・体験交流型観光推進事業
- ・平成27年度中学生ふるさと民泊学習推進事業

(4) 関係機関等との連携

- ・周防大島町体験交流型観光推進協議会（周防大島町産業建設部：商工観光課）
  - ＊ 民泊受入家庭の選定ならびに紹介
  - ＊ 入村式、離村式の準備と進行
  - ＊ 事故発生時等の緊急対応マニュアルの作成
  - ＊ 民泊家庭と学校本部との連絡窓口

・周防大島町教育委員会：学校教育課

＊ 民泊当日の活動日程の調整

＊ 補助金申請と給付

○ 配慮事項等

(1) 安全確保等の配慮点

- ・参加承諾書の提出と保護者緊急連絡先の確認
- ・アレルギー調査（食べ物アレルギー含む、対処方法）→ 民泊家庭へ連絡
- ・配慮を要する生徒の体験活動等の制限や配慮事項 → 民泊家庭へ連絡
- ・体験活動賠償責任保険への加入
- ・事故発生時等の緊急対応マニュアルの準備（本部の設置と緊急対応体制の確認）

#### 4 体験活動の評価と指導の工夫・改善

○ 評価のポイント

(1) 事前指導

- ・事前指導における生徒の発言や発表、ワークシートの記述
- ・自己テーマの内容
- ・自己紹介カードの記述

(2) 民泊当日

- ・巡回時の生徒の様子を観察や会話
- ・巡回時の受入家庭の方々との会話

(3) 事後指導

- ・活動の記録（民泊のしおり）の記述
- ・お礼状の記述
- ・民泊のまとめ（壁新聞）の内容

○ 指導の工夫や改善

(1) 事前指導

・当初は生徒の民泊への興味・関心は薄いように感じたが、事前学習の授業にゲストティーチャー（コミュニティー・スクールスーパーバイザー）に来ていただいたことで、ふるさと大島への関心や民泊についての興味が高まり、民泊当日に臨むことができた。

(2) 民泊当日

・生徒と民泊家庭との交流を大切にするため、携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などの持参を禁止した。民泊後の生徒の感想などから、民泊家庭の方々との交流を深めることができ、睡眠もしっかりとることができたようであったので、改めて不要であったと感じている。

(3) 事後指導

・民泊のまとめの活動においても、ゲストティーチャー（コミュニティー・スクールスーパーバイザー）に来ていただき、今後のキャリア学習やふるさと学習につながるように計画した。

#### 5 活動の成果と課題

○ 今回民泊を行った2年生は、生まれた時から周防大島で暮らしている生徒がほとんどで

あるが、農作業や漁業などの経験がない生徒が多かった。民泊後の生徒の感想には、初めて体験した活動が多く、とても楽しかったという内容が多く、とても充実した体験学習になったようである。夏休みが明けての生徒は、体育祭の練習に意欲的に取り組んでおり、以前に比べると、何事にも積極的に挑戦しようとする態度が身についてきているように思う。

また、活動中に民泊家庭の方から厳しく指導していただいたこともあったようであるが、自分たちの住む地域の方からのご指導に素直に耳を傾けることができたようである。自然を相手に働くことの厳しさや大変さも知ることができたのではないかと思う。

民泊後の生徒の感想や2学期の生徒の様子などから、少しずつ変容も見られることや、保護者の方々からも好評であったことなどから、来年度以降も機会があれば、ぜひこの行事を継続したいと考えている。

#### 生徒の感想

- ・ 大島について知らないことがたくさんあったし、やったことのない体験をすることができて、とても感動した。
- ・ 初めて漁船に乗って釣りをしたり、魚をさばいたり、今まで経験したことのないことができて楽しかった。
- ・ 民泊家庭の方と、大島のことについていろいろと話をした時、大島は何もない島ではないと感じました。昔からの大島の歴史や大島の良さがたくさんあるんだなと思いました。初めての体験やお話しをすることができて、よい思い出になりました。
- ・ やったことのないことにチャレンジしたり、今までできなかったことができるようになったり、たくさんの貴重な体験をすることができた。大変で疲れたけど、充実した3日間だった。楽しかった。
- ・ 民泊に行く前は、いろいろと不安もあったけど、日頃は全然できない体験がほとんどで、とても楽しかったし、良い経験にもなった。怒られたこともあったけど、それも自分たちのためになる事ばかりだったと思う。
- ・ 魚釣りで船に乗って海に出たり、畑作業をしたりしたことで、自然の美しさや大切さが、とてもよくわかった。

- 3日間、担当教員が巡回したが、生徒が船に乗って海に出ていたり、畑等に移動していたりして、活動の様子を見ることができないこともあった。事前に民泊家庭と連絡を取り、活動場所をしっかりと把握しておくことが必要であると感じた。

また、離村式において受け入れ家庭の方と少しお話しをする機会があったが、その際、生徒が何をしに行ったのか、生徒が何をしに来たのか、という「ねらい」について、「学校のねらい」と「民泊家庭のねらい」に多少のずれがあったのではないかと感じた。この点については、事前に民泊家庭との間でより具体的に共通理解を図っておく必要があると思った。

本校では今回初めて民泊体験学習を行ったが、今後もこの活動を継続して実施したいと考えている。